

# 図書便り



練馬区立石神井西中学校

令和元年 12月

街路樹が紅葉し、朝晩の冷え込みに冬の訪れを感じるこの頃です。  
 今月は冬休みの特別貸し出しがあります。寒い日は暖かいお部屋でじっくり読書を楽しんでみませんか。

## 〈12月図書カレンダー〉

月	火	水	木	金	土	日
<b>2</b> 朝礼 安全指導	<b>3★</b> 三者面 談期間始 短縮A時程始	<b>4</b>	<b>5★</b> 小学生向け海 外派遣報告会	<b>6★</b> アメリカ大使 館交流	<b>7</b>	<b>8</b>
<b>9</b>	<b>10★</b>	<b>11★</b> 三者 面談期間終 短縮A時程終	<b>12</b>	<b>13</b>	<b>14</b> 閉室 授業日	<b>15</b>
<b>16★</b> 朝礼 中央委員会 1年ポッチャ体験	<b>17</b>	<b>18</b> 避難訓練	<b>19★</b> 各種委員会 短縮A時程	<b>20</b>	<b>21</b>	<b>22</b>
<b>23</b> 朝礼	<b>24★</b> 大掃除 短縮A時程	<b>25</b> 終業式 特別時程	<b>26</b> 冬季休業日 始	<b>27</b>	<b>28</b>	<b>29</b>
<b>30</b>	<b>31</b>					

※月～金曜日のお昼休みは、開室、貸出しをしています。  
 (開室時間は図書室入口に表示してあります)  
 ★がついている日は、学校図書館支援員が在室、放課後貸出ししています。  
 ※閉室の場合は、返却する図書を廊下の返却BOXに入れてください。  
 ※閉室と表示されている日は、閲覧、貸出しできません。



## お知らせ

- 冬休みの特別貸出しをします。  
 期間：12月16日(月)～1月10日(金)  
 冊数：5冊(冬休み前に読み終わった時は、借り直しができます)  
 ※返却日を過ぎた本は、速やかに返却してください。次に借りたい人が困っています。
- 12月3、5、6、10、11日は学校図書館支援員が出勤していますが、13:25～14:45の間は1年生の調べ学習で、関町図書館に同行するため、再開室は14:45以降になります。ご理解とご協力をお願いします。
- 11月から始めた“POPをつくろう!”のコーナーは、冬の間続ける予定です。POPを作ってくださった方には、ステキな特製しおりをプレゼントしています。(しおりの見本も展示しています)





新着本の中から冬休みに読みたい本を紹介します

『めぐり逢いサンドイッチ』 谷 瑞恵 著

角川書店（請求記号：913タ）

実は血のつながりはないが、仲がいい姉妹が営む手作りサンドイッチの専門店“ピクニック・バスケット”。様々な事情や悩みを抱えて訪れる人々を、絶品のサンドイッチが癒してくれる優しく、ほっこりするお話です。

ストーリーの中に登場する色々な種類のサンドイッチは、具やお客様によってパンの厚みを考えていて、思わず食べたくなってしまいうまい一冊です。



『その景色をさがして』 中山 聖子 著

PHP 研究所（請求記号：913ナ）



両親の離婚を経験した後、母を亡くし祖父母と一緒に暮らす中学2年生のトーコは、母の遺品を整理するうちにノートにはさまれた一枚の見覚えのない絵葉書を見つける。絵葉書を見るうちに、母が行きたがっていた場所があることを思い出したトーコは、そこに行ってみようと思決意する。

少女が祖父母や友人、周りの人たちに支えられながら成長していく姿を描いた優しく、温かくて、泣ける物語です。

『作家たちのオリンピック』 浅田 次郎ほか 著

PHP 研究所（請求記号：913：サ）

1932年のロサンゼルスから2020年の東京まで、オリンピックに関わった人々や選手たちのドラマを描いた7人の作家達による短編集です。

何かと忙しい年末年始ですが、短編小説を読んで一息ついてみませんか。今まで読んだことのない作家さんにも出会えて、新しい発見につながりそうな一冊です。

「オリンピックを知らない僕達へ」（額賀 濤 著）は特におすすめです。



『天を掃け』 黒川 裕子 著

講談社（請求記号：913ク）

短距離走者として期待されながらも、ケガと精神的なものから走れなくなった中学2年生の俊馬が、たった一人で小惑星探索に挑むすばると出会い、友情を深めながらお互いに成長していく友情＋小惑星探査の物語です。

初夏のお話ですが、空気が澄んで天体観測がしやすくなる冬にもおすすめです。



『ライフ』 小野寺 史宜 著

ポプラ社（請求記号：913オ）

2回就職したものの、やりたいことが見つけれないまま、コンビニでアルバイトをしながら気楽なアパート暮らしをしていた井川幹太27歳。

ある日ふとしたことから、今まで知らなかった近所の人々との交流が始まり、自分の中で押し殺していた「願い」に気づく。

一人で生きられればいいと思っていた青年が、新たな一步を踏み出すまでを描いた青春小説です。

進路に悩み、迷った時にもおすすめの、読んだ後温かな気持ちになれる一冊です。

